

令和4年度 法学部法律専攻

# 基礎演習

# 募集要項

## (第1期第2次)

応募期間：6月24日(金) 12:00~30日(木) 12:50

応募方法：K-SMAPY II (アンケート欄からエントリー)

結果発表：7月6日(水) 20:00 予定 (K-SMAPY II)

### 【注意事項】

- ◇ 各クラス 20名を上限とします。20名以上の応募があった場合、各教員が指定する方法（志望理由や課題の記述など）に基づく選考が行われます。また、応募者が20名未満の場合でも、志望理由や記述の内容によっては不合格となる場合もあります。
- ◇ 演習の内容や選考方法は担当教員によって異なるので、この募集要項をよく読んで確認したうえで、応募するようにしてください。
- ◇ 担当教員にメールで質問をする際には、氏名・学籍番号のほか件名や宛名を忘れずに記入するようにしてください。
- ◇ 募集枠に余りがある場合に限り、9月に第II期募集を行います。第II期募集の実施は確実ではなく、希望するクラスで第II期募集が実施されない場合もあるので、ぜひ今回の募集にエントリーするようにしてください。
- ◇ 「基礎演習」では、毎回の出席が原則です。履修中、やむを得ず欠席しなければならない場合には、必ず事前に担当教員に申し出て、その指示に従うようにしてください。

担当教員名	稲垣 浩			
担当教員の専門分野	行政学・地方自治論	開講曜時	木曜4限	
<b>演習の概要</b>				
こんな人に来て欲しい こんな人にお勧め	行政や政策について基礎的な調査研究能力を身につけたい人			
授業のテーマ	行政・政策についての調査研究入門			
授業の目的・内容	<p>この基礎演習は、日本の行政や政策を題材にして、研究の基礎的な知識や技法を学ぼうとするものです。前半では、日本の中央政府や地方政府における行政の課題や政策がどのようなものであり、どのような課題を抱えているのかを、様々な論文や資料の読解や履修者間での議論を通じて学んでいきます。後半は、具体的な研究テーマを決め、そのテーマについての研究計画を作成することを通じて、行政や政策の分析に必要な基礎的な技法や能力について学びます。</p> <p>「基礎的」ではありますが、「簡単」で「楽」というわけではありません。大学で学ぶための必要な作法を身に付けるためのゼミです。</p>			
教科書・参考書	履修者決定後、履修者に毎回のテキストとなる文献を配布します。			
授業の進め方	前半は、各回のテーマに沿った課題文献の講読を行います（テーマは予定です。今後変更する場合があります）。担当者による内容報告、履修者全員によるコメントペーパーの提出、全体での討論を行います。後半は、各自で決めたテーマの調査研究に必要な研究計画の作成を行います。これらを通じて、調査研究に必要な知識や技法の修得を目指します。			
身につくスキル	資料の収集	○	文章の読解	○
	プレゼンテーション	○	文章の作成	○
	協同作業	○	ディスカッション	○
評価方法	毎回の授業での発言や議論、自身の報告についての発表、提出されたレポートの内容を基に総合的に評価する。			
教員との連絡方法	Eメール(inagakih@kokugakuin.ac.jp)			
選考方法	<p>下記の内容について、応募時のアンケートのコメント欄に記述してください。</p> <p>①これまでに読んだことのある、単行本または文庫（できれば社会科学系のテーマを取り扱ったもの）、新書（岩波ジュニア新書など中高生向けの新書を含む）、新聞や雑誌、インターネットや新聞・雑誌などの論説記事（単発の事件の紹介や報道記事は含まない）のうち、一つを取り上げ、その簡単な内容の説明と自身の感想や考えたことについて500字程度でまとめ、論述してください。</p> <p>②このゼミで何を学びたいと考えているのか、このゼミでどのような能力を向上させたいと考えているのか、300字程度で述べてください。</p> <p>他人と議論したくない学生、しゃべりたくない学生の参加はご遠慮ください。</p>			

授業回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	行政・政策関係文献の講読とディスカッション① 政治と行政 『「官僚」はエリート就職先か？ 官僚バッシングとブラック化』
第3回	行政・政策関係文献の講読とディスカッション② 福祉政策 『「生まれてきた」ことが悪いのか？ 都市における出自と孤立』
第4回	行政・政策関係文献の講読とディスカッション③ 経済・開発政策 『東京はどこからきてどこへ行くのか？ 東京の開発と戦後社会』
第5回	行政・政策関係文献の講読とディスカッション④ 住宅・土地政策 『空き家はなぜ問題なのか？ 住まいと土地をめぐる諸問題』
第6回	行政・政策関係文献の講読とディスカッション⑤ 文化政策 『なぜ芸人はM-1を目指すのか？ 文化と競争』
第7回	行政・政策関係文献の講読とディスカッション⑥ 地方自治 『自治体のDX化とは何か？ 変化する行政－住民関係』
第8回	研究計画の作成① テーマを探す
第9回	研究計画の作成② 問いを立てる・仮説を立てる（1）
第10回	研究計画の作成③ 問いを立てる・仮説を立てる（2）
第11回	研究計画の作成④ 調査方法を学ぶ（1）
第12回	研究計画の作成④ 調査方法を学ぶ（2）
第13回	研究計画の作成⑤ 研究計画を発表する（1）
第14回	研究計画の作成⑤ 研究計画を発表する（2）
第15回	全体のまとめ

担当教員名	小 原 薫			
担当教員の専門分野	政治学	開講曜時	金2限	
演習の概要				
こんな人に来て欲しい こんな人にお勧め	人前で自分の意見を言って、討論する力を養いたい学生にお勧めです。			
授業のテーマ	「読む力」・「話す力」・「聞く力」のレベルアップ			
授業の目的・内容	この授業では、大学での学習に必要な基礎的な読解力と報告・討論の基礎力養成に焦点を当てます。政治や現代の社会に関する教材を使いながら、要点を的確につかむ本の読み方、自分の主張の論理的な構成方法、他人に自分の主張を正確に伝える発表や報告の仕方、議論の問題点を明確にする質問や議論の方法などについて練習をしてもらいます。			
教科書・参考書				
授業の進め方	授業の前半は、1分間スピーチと質疑応答。後半は、課題文を読んだうえでの討論を行う。最後の3回は、ディベートゲームを行う予定。			
身につくスキル	資料の収集		文章の読解	○
	プレゼンテーション	○	文章の作成	
	協 同 作 業	○	ディスカッション	○
評価方法	平常点（課題の提出状況と授業時での貢献度を加味します）			
教員との連絡方法	メール ohara@kokugakuin.ac.jp			
選考方法	志望理由に基づき選考を行うので、エントリー時にK-SmapyIIの自由記述欄に、この基礎演習の履修を志望する理由を書いてください（300字から500字程度）。			

授業回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	朝日新聞Globe「支持されそうな人に一票を入れます」
第3回	河瀬直美 令和4年度東京大学学部入学式祝辞
第4回	マイケル・サンデル「レクチャー1 犠牲になる命を選ぶか」『ハーバード白熱教室講義録+東大特別講義』上（早川書房）
第5回	マイケル・サンデル「序章 市場と道徳」『それをお金で買いますか』（早川書房）
第6回	未定
第7回	未定
第8回	丸山真男「「現実」主義の陥穽」『丸山真男集<第5巻>』（岩波書店）
第9回	石橋湛山「大日本主義の幻想」（岩波文庫）
第10回	永吉希久子『移民と日本社会』第2章(中央公論新社)
第11回	湯浅誠『反貧困』第2・3章（岩波新書）
第12回	ディベート1
第13回	ディベート2
第14回	ディベート3
第15回	総括討論

担当教員名	宮下 大志		
担当教員の専門分野	政治学	開講曜時	金曜3限
演習の概要			
こんな人に来て欲しい こんな人にお勧め	「議論したい」人、「議論ができるようになりたい」人にオススメです		
授業のテーマ	社会的な問題について考え、議論する練習をしてみる		
授業の目的・内容	<p>まず、「自分なりに論じる」ことに慣れてもらいます。自分が興味を持ったテーマについて論じてみましょう。そして、学生同士で「議論して」みましょう。また、文章をまとめたり、それを「レジュメ」とするという作業も行います。「ややカタメの」本を読み、その内容についてまとめて、発表し、その主張について検討する、というところまで、練習として経験してもらいます。それが、法律を学ぶにしても政治を学ぶにしても、大学での勉強の基本となるからです。そしてその過程で、世間で発表/発行されている文書について「疑う」ということも覚えてもらいます。みなさんは、「活字」になっている主張については、もしかしたらそのまま鵜呑みにしてしまう傾向があるかもしれませんが、しかしじつは、世の中には対立する意見が飛び交っていて、それを「自分なりに」吟味する必要があるのです。以上のことをマスターすれば、さあ、これであなたも、ホンモノの大学生です！</p>		
教科書・参考書	その都度教材を配布します。基本的には社会的なテーマ、政治的なテーマの教材を使用します（判例を議論するとかではありません）。		
授業の進め方	授業の進行によって変わっていきませんが、基本的にはこちらが提供したり皆さん方に探してもらった材料について、皆さん方に発言してもらおう形で授業を進めます。		
身につくスキル	資料の収集		文章の読解 ○
	プレゼンテーション	○	文章の作成
	協同作業	○	ディスカッション ◎
評価方法	平常点により評価します（毎回の出席を当然の前提として、討論への参加度、報告内容、そして（ときどきの）提出物）。		
教員との連絡方法	miyashita@kokugakuin.ac.jp まで、連絡をください。		
選考方法	最近の社会的な出来事のうちあなたが関心を持った出来事の一つを選び、それについて「自分なりに考えたこと」を、エントリー時にK-SmappyIIの自由記述欄に記してください（「志望理由」ではないので注意）。その文章から、社会への関心と「考えようとする姿勢」を評価し、選考基準とします。1,000字程度までに収めてください。		

授業回	内容	
第1回	ガイダンス・自己紹介	
第2回	自分の意見を形成する・発表する：自分で記事を探して（1）	
第3回	自分の意見を形成する・発表する：自分で記事を探して（2）	
第4回	自分の意見を形成する・発表する：自分で記事を探して（3）	
第5回	議論をする：教員の用意するテーマで（1）	過去には、フランスの「公共の場で顔を覆うことを禁じる法律」(ムスリムを意識したもの)の是非や、特別支援学校と地域の小中学校の交流について車椅子の少年が「僕はふれあい動物園じゃない」と投げかけた疑問などのテーマで議論をしました。時事問題を扱うこともあります。またここで、文章をまとめる練習もおこないます。
第6回	議論をする：教員の用意するテーマで（2）	
第7回	議論をする：教員の用意するテーマで（3）	
第8回	ディベートをしてみよう(グループによる準備調べ・作戦立案)	
第9回	ディベートをしてみよう(試合)	昨年は、「ふるさと納税制度は、そもそも地方の自治体の支援策として望ましい制度なのか」をテーマにディベートをおこないました。
第10回	ディベートをしてみよう(試合)	
第11回	レジュメを作る：単なる要約ではなく視覚的にも理解しやすいものを	
第12回	ゼミ形式で報告・議論をしてみる：新書を一冊、題材にして（1）	昨年は、『ポピュリズムとは何か』という本と、『やさしくない国ニッポンの政治経済学』という本でゼミ形式の発表・議論をおこないました。
第13回	ゼミ形式で報告・議論をしてみる：新書を一冊、題材にして（2）	
第14回	ゼミ形式で報告・議論をしてみる：新書を一冊、題材にして（3）	
第15回	ゼミ形式で報告・議論をしてみる：新書を一冊、題材にして（4）	